

私の幼稚園経営

佐藤 盛雄

一、大分市に於ける幼稚園の教育

「私の園の研究」という題で書くように申越されたが、兼任園長として園の独立を圖り、発足六年目でやっと幼稚園らしい姿になり得たので園の教育研究というよりも今日に至った設立の苦心の方が今の私にはピッタリするので、主題からやや離れた感じがあるが、私の感じたままを記して見よう。おゆるしを乞う。

九州の東玄關、阿蘇国立公園の東入口、最近野生猿の出現で一躍有名となったここ大分の地は、知る人ぞ知る西洋文化発祥の

地である。戦国時代の末期、進歩的な領主大友宗麟が、当時渡来したフランシスコ、ザビエルに帰依して、天主教の弘通をはかり、そのため教会堂は勿論、大学校、病院、産院、音楽堂等の洋式の建物が建ち並び、けんらんたる西洋文化の花を開いた歴史的な町である。最近に至りキリシタン博物館をはじめ、往時の文化施設再現の運動が大分市長によって提唱され展開されている程である。幼稚園教育の面でもその発祥は古く今日六十年の歴史を持っている。現在十三の分立小学校を持つ人口十萬の小都市ではあるが、幼稚園の施設数は国公立十園、私立四園を数えて居り、更に新年度からは公立一園が設立されることとなって目下準備中である。施設面に於ては尙十分とは言いや難いところもあり、保育の状況も大部分就学前一年児の一年保育ではあるが、該当年令児の九十パーセント以上がここ数年來幼稚園に通って、正規の幼稚園教育を受けていることは誇り得る現実であろう。

二、金池幼稚園設立の苦心

終戦まで本市の公立幼稚園は附属幼稚園と教校区にまたがった大分幼稚園及び南大分幼稚園の三園に過ぎなかった。昭和二十一年七月、太平洋戦争も終末に近づいた一夜米軍の焼夷爆撃を受けて市街の大半が焦土と化した時、当時五十年の伝統と、完備した施設を誇った大分幼稚園も完全に焼失してしまった。戦後樹てた都市計画はこの焼失した幼稚園の敷地を幹線道路に転換するに至ったので、原位置に復興することは不可能となり、僅かに焼失をまぬかれた荷揚町小学校の校舎を借りて復園したものの、到底昔日の施設に復えずことは出来なかった。かかる状態を見た金池小学校区民は、通園の上からも、収容力の点からもむしろ分離して、金池小学校に併設した幼稚園を作るべきだと相議り、必要経費を拠出して分離独立することに決し、昭和二十四年四月市立金池幼稚園の誕生を見るに至った。当時の大分市の状態では、幼稚園を設置する為にはその施設費の三分の二を地元で負担することになっていた（現在は二分の一となっている）余り地元の方々に多額

の負担をかけぬように考え、差当って十数年前保護者会から寄贈した小学校の保育室（三十二坪）を若干改造して保育室と職員室に充て、更に体操倉庫を大改造して二つの保育室を作ることとした。さていよいよ発足して見ると園児は二三〇名もあり、保育室は僅かに三室しかない有様なので、六組編成の園児の保育は、部屋の内と外との使い方を考えたり、雨の日は臨時に講堂を使用したり（それでも冬期は遂に二部保育の止むなきに至った）中々の苦心であった。設備も皆無に等しかったので開園第一年は実にみじめなものであった。以後三年はこの専用三室の外は或は小学校の空教室を転用したり、或は講堂を間敷切つて二部屋を作る等窮屈な保育を続けて来たが、校地に続く水田三百五十歩が埋立てられて専用園地となるに及び、昨年度ははじめ園舎の増改築の計画をたて実現にかかった折も、幸にも文部省のモデル幼稚園の指定を受けてその指導の下、昨年度は保育室二の新築と三十四坪の遊戯室の増改築工事が成り、更に本年度第二期工事として開園当初

の貧弱な保育室二の大改造と新保育室一の増築及び便所、水呑場、足洗場等が完備し職員室、保健室等の改装を残すのみとなり全く面目一新の幼稚園となった。一方設備面に於ても年を追って整えられた。開園当時楽器も乏しく、口頭でリズム指導している先生の涙ぐましい姿を見かねて一父兄が古オルガンの寄贈を申出たのをきっかけに設備は父兄の手でと、先ず開園記念バザーを計画し、その利益を設備充実に申合せた。父兄二点以上自作の品を持寄つての即売展、小麦粉、砂糖、小豆等を出し合つて作つた食堂バザー、いろいろつまずきはあつたものの結果は予想以上の好成绩で、直ちに新しいオルガンとなつて子供達を喜ばせることになった。爾来毎年一回バザーは開かれ、年を追つてその成績も向上し、そのため園の設備も漸次整つて来た。今私の園にある各種の音楽施設や、積木、遊具等は金額に見積れば人様を驚かす程の多額のものではないが、私共にとつては過去五カ年間に於ける二千余人の親と子と十数人の職員が作り上げた努力の結晶として愛惜お

くあたわれないものばかりである。

三、私の幼稚園経営の概要

以上述べたように、本園は地元民の要望により、地元民が多額の経費を負担して設置した園であり、今日園地、園舎は全く独立してはいるものの、小学校と厳然と区別するに至らない統一した園地であり、隣合つた園舎であり、加えて園長も小学校長の兼任である。園児も殆ど校区内の者であるため、園終了後は揃つて小学校に上るので、経営の方針は小学校と一貫性を持つことを第一にしている。

(イ) 先ず園の大きな行事、例えば運動会、遠足、学期の始業、終業等は大抵小学校と同一に計画実施する。

(ロ) 遊び場所も小学校低学年に近い処を主とし、遊具等についても、小学校低学年と共用出来るよう、位置、高さ等を考慮している。小学校に於ける低、高の差は小学校と幼稚園の差よりも大きいことが多いし、小学校の低学年の遊びは幼稚園との関連を持つことの方が望ましい。近

き將來小学校建築の場合に於ても、小学校の低学年と幼稚園との連関を十分考えたいと思つてゐる。

(イ)、更に運動場、講堂、映写室、衛生室等小学校の施設が園に十分利用出来るようにしている。園の施設で小学校に利用されるものは十分利用されている。施設、設備の乏しい現在の日本では、お互に持っているものを独占する考えは大いに改め出来るだけ自らの垣を取り除いて、只管に子供等の幸福のために努力すべきであると思ふ。

(ロ)、幼稚園経営で最も努力することは家庭との連絡を十分とすることにあると思ふ。小学校でも毎月家庭指導の手引を家庭に配つて、一カ月の予定と指導上の留意点を明らかにしているが、幼稚園に於ても毎月（今年からは毎週）の保育予定と、家庭に於ける指導の要点を明らかにして協力を願つてゐるは勿論、毎月開かれる小学校の地域PTAにも、幼稚園の父兄も参加して貰い、幼稚園からも担当の先生が出かけて、夜おそくまで園の生活

模様を話し、家庭での在り方をきいて毎日の保育の参考にしている。尙同時に小学校と合同の会であるため昨年、一昨年の子供の成長のことなど話題とすることが出来、園も父兄も得るところが多い、これによつてお母さん方の無用なおせっかいが段々少くなり、子供の本当の姿をじつと見守つて呉れる気持が深まったような気がする。喧嘩している子供を静かに見守る母親、学芸会等の時舞台の上で何も言わず停つたままの我が子をそのうちに発表出来るようになると思ふこと、待つて呉れる親達の多くなつて行くことはうれしいことだ。

(ハ)、小学校との一貫性を図る根本は、何と言つても両方の先生が理解ある協力をすることである。幼稚園の先生方が昨年、一昨年育てた子供の成長を目前に見つ本年の保育に尊念し、小学校の先生方が現在の子供の過去の育て方をよく知つて教育を進めて行くことに努めることは、極めて大切なことであり、この連絡提携を容易ならしむることこそ、併設園の特

色であろう。教職員の理解ある協力に努めることが兼任園長の重大使命である。

（大分市立金池幼稚園）

近刊

幼稚園劇遊び集

当幼稚園において、実際に幼児に遊ばせてみて、有意義だつたと思われもの二十数種を、一巻におさめたものでございます。

近く皆様にお目かけられると存じております。

昭和三十年五月

お茶の水女子大学

附属幼稚園研究部